

令和6年度 第2回 富谷市総合計画審議会 会議録

日 時：令和6年12月16日（月）午後3時00分から午後5時05分まで

場 所：富谷市役所 3階 305会議室

参加者：富谷市総合計画審議会 出席委員12名

：富谷市9名

：事務局5名

：オブザーバー（成田中学校生徒）2名

1 開会（司会：企画部長）

2 市長挨拶（若生市長）

皆さま、お疲れ様でございます。本日は、本当にお忙しい中、富谷市総合計画審議会にご出席いただきましたこと心より感謝申し上げます。

ご承知のとおり総合計画審議会では、富谷市の未来を描く総合計画を作り上げてまいります。最上位計画である総合計画に基づいて各部、各課で分野別に作成する様々な計画が枝分かれしていきますので、一番大事な計画になります。

現在の総合計画は平成28年に市制施行するタイミングで、新たなまちづくりに向けて「市になることが目的ではなく、大切なのはどんな市をつくるか」ということで、市民アンケートや座談会など色々な形で市民の皆さんの声をいただきながら作り上げた計画であり、「住みたくなるまち日本一 100年間ひとが増え続けるまち」という将来像を掲げております。

現在は後期基本計画の途中になりますが、あと2年で富谷市は市制施行から10年を迎え、第1期総合計画から第2期へと進む準備に入っているところであります。今年の8月に第1回総合計画審議会を開催し、本日ご出席の委員の皆さまに委嘱状をお渡しさせていただき、第2期の総合計画策定に向けてスタートをしたところでございます。

また、この最上位計画である総合計画をはじめとして富谷市では、「子どもにやさしいまちづくり」の実践自治体として様々な子ども達の声をしっかりとし市政に反映させるために、色々な形で子ども達の声聞いております。そういう意味で、本日も市内中学生の代表として、今年の生徒会幹事校である成田中学校からお二人にご出席をいただいております。このような生徒会活動、または毎年11月20日の世界こどもの日に合わせて小学生に参加いただく「わくわく子どもミーティング」などの機会を通じて、子ども達の声をしっかりとし市政に反映しているということは、今年の9月に中国で開催されたユニセフの国際大会に日本を代表して富谷市が招待された際にも私から発表をしてきたところであります。更に10月には東京都の小池都知事が未来を担う子ども達のためにということで実施された新規事業のこどもシンポジウム「ティーンズスクエア」にもぜひ富谷市にも参加していただきたいという話があり、富谷市、札幌市、千葉市、東京都の子ども達と参加をしてきましたが、その際にも成田中学校の生徒から素晴らしい発表をしていただきました。こういった機会はこれからも大事にしていきたいと考えているところであります。

富谷市におきましては、おかげさまで様々な自治体評価ランキングにおいてこれまでも高く評価いただいているところですが、お手元の資料のとおり、今年も11月13日に発表された「住み続けたい街

ランキング」で富谷市が4年連続で東北第1位になっております。また、「街の幸福度ランキング」では、これまで宮城県内では第1位ではあったものの、今年は初の東北第1位という高い評価をいただいております。また、7月にも「住みこちランキング」の発表がありましたが、こちらも5年連続で東北第1位ということで、おかげさまで今年も3冠を達成することができたところでございます。これもひとえに、本日ご出席いただいている委員の皆さまにそれぞれの分野でご指導をいただいているおかげだと考えております。

私は、富谷市の力は「市民力の高さ」だと思っております。本日、ご出席の委員の皆さまにも、それぞれのお立場で様々な市民活動に取り組んでいただいておりますが、その結果がこのような自治体評価ランキングで連続して東北第1位という評価に繋がっているものと考えております。そういう意味でも、こういった自治体評価ランキングのみならず、様々な形で市民の皆さまから住んで良かった、そして誰もが住み続けたいと思ってもらえる「住みたくなるまち日本一」の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。そのためにも次期総合計画は大変重要な位置づけを持っているものでありますので、本日はまず第一歩として市民アンケートの結果などを報告させていただきながら、基本構想についてお話をいただき、これからいよいよ本格的な検討がスタートしてまいります。風見会長のもと皆さまの声をしっかりと集約をして、市民の皆さまが希望に満ちた、そして市民の皆さまとともに新たな10年の計画を作りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 会長挨拶（風見会長）

皆さん、こんにちは。

中学校を代表して参加のお二人、ようこそおいでくださいました。総合計画審議会は、市の最上位の計画を作る場所です。そういう意味では、皆さんの未来を作っている場所になりますので、委員の皆さまに負けずに未来に向けた発言を期待しております。

私からもご挨拶させていただきますが、まずは若生市長におかれましては日夜、富谷市のためにご活躍されておられること、本当に嬉しく思っております。本年度、若生市長とは様々な場面で一緒にする機会があり、「とみやど」が日本不動産学会の業績賞を受賞した際には若生市長とともに東京で壇上に立たせていただきました。また、日本環境共生学会においても村上委員のNPO法人SCRとも取り組んだ「大亀山森林公園のツリーハウスプロジェクト」で学会賞を受賞し、連続して若生市長と壇上に立たせていただきました。また、私が東北支部の副支部長を務めております日本計画行政学会においても富谷市は世界首長誓約自治体ということで先陣を切られており、全国に向けたシンポジウムでも若生市長がご発言をされておられました。本当に誇らしい気持ちで富谷市の活躍ぶりを全国に発信できた年になったと考えております。これは若生市長をはじめ、全庁、全職員の協力があったのだと思いますし、若生市長がおっしゃっている「市民力」が集結している結果だと思います。

本日は、新たな総合計画の検討ということで、皆さんはこれから読み込んでいただく内容になるかと思いますが、総合計画は大きな都市全体の方向性を決めると同時に、将来どこに重点を置くべきかという富谷市の特徴をつけていくというものでもあります。そういう意味で、富谷市全体の話でどうしても総括的になってしまいがちですが、皆さんの役割としてはそれぞれのお立場でしっかりと特徴づける、味付けをしていただくということです。本日は忌憚のないご意見をよろしくお願いしたいと思います。

また、国も新政権になりまして富谷市でも各省庁とお話をしていると思いますが、新政権の石破政

権では地方創生が基本戦略になっています。デジタル田園都市国家構想が前政権で掲げられましたが、石破総理はその以前から地方創生に取り組まれたかったわけですので、地方創生の具体的な資金獲得も含めて国の支援をしっかりといただきながら戦略を実現していく必要があろうかと考えます。そういう意味で、今、総合計画を作るということはタイミングとして良い時期かと思います。富谷市は地域資源や観光地と言えるような観光資源が豊富にあるわけではないですが、その中でも「とみやど」には60万人ものお客様が訪れているなど、全国でも注目を集めています。これから皆さんの総力をあわせて、「オールとみや」で総合計画を作るべきだと考えておりますので、それぞれのお立場から本日も活発なご意見をいただきまして、すばらしい総合計画を作ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

※ここから、風見会長が議長となり議事が進行された。

4 議事

(1) 富谷市の現状及び課題について

(風見会長)

それでは、議事の1つ目、(1) 富谷市の現状及び課題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、富谷市の現状及び課題についてご説明いたします。

資料1の2ページをご覧ください。第2次富谷市総合計画策定の趣旨でございます。

本市におきましては、平成28年度に富谷市総合計画を策定いたしまして、令和7年度を目標年次として、各種施策を展開しながら、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてまいりました。これまでの間、本市を取り巻く社会経済情勢は、急激に変化しているところでございますが、本市では、令和3年3月には第2次富谷市地方創生総合戦略を取りまとめ、これまでに、様々な取組を積極的に進めております。

令和8年度には市制施行から10年となりますので、次のステージに向けて、新たな将来ビジョンで進めるまちづくりを、市民の皆さまと共有していくことが必要となっております。今後は、社会情勢等の変化に対応しながら、これまでの富谷市総合計画や第2次富谷市地方創生総合戦略に掲げる理念を継承・統合して、新たな将来ビジョンとなる第2次富谷市総合計画を策定することとしております。

続いて3ページをご覧ください。時代の潮流でございますが、時代の変化による社会全体の環境と課題について、7つ掲げております。まずは、①少子高齢化社会の進行でございます。少子高齢化は、本市におきましても、今後は一層高齢者の人口比率が増加していくものと予測されており、高齢化社会への早期対応が求められております。その他、②市民生活の安全・安心の確保、③情報化・国際化の進展など、4ページにかけて、社会全体の課題として7つ掲げております。

続いて5ページをご覧ください。総合計画の構成と期間でございます。総合計画につきましては、基本構想、基本計画及び実施計画から構成されております。基本構想につきましては、長期的な視点に立ったまちづくりを進めていく必要性から、令和8年度から令和17年度の10年間の計画期間としてお

ります。基本計画につきましては、前期が令和8年度から令和12年度の5年間、後期が令和13年度から令和17年度の5年間となっております。実施計画につきましては、毎年度策定いたします。計画の期間は3年として、毎年、社会経済情勢の変化、財政状況を勘案しながらローリング方式で策定いたします。

続いて、6ページをご覧ください。総合計画の進行管理になりますが、10年にわたる計画期間で、経済・財政事情に対応しながら、施策や事業を効率的、効果的に実施いたしまして、市民に情報公開していくための適切な進行管理を図ってまいります。社会経済情勢の変化等によっては、総合計画の改定が必要な場合には、弾力的に見直しを行っていくこととしております。

富谷市地方創生総合戦略との関係になりますが、総合計画の中で、特に人口増加に向けて即効性のある効果的な事業を抽出しまして、目標を定めながら、計画に沿って重点的・戦略的に実施していくものでございます。

続いて7ページになりますが、SDGsとの関係につきましては、総合計画は本市の将来像の実現に向けまして、まち全体でまちづくりに取り組むことで実現される目標となっておりますので、こういった取組が「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現、SDGs達成に向けた取組に貢献するものと考えております。

続いて、8ページから富谷市の現状でございます。富谷市の特性として、本市の自然的特性と歴史について記載しております。説明は割愛いたします。

続いて、9ページをご覧ください。富谷市の人口の推移でございます。本市の総人口は、令和2年で51,651人となっております。人口は、グラフのとおり、これまで増加傾向となっております。直近では微増での推移となっております。世帯数につきましても増加傾向で、令和2年で18,401世帯となっております。

続いて、10ページをご覧ください。居住者の特性になりますが、国勢調査での人口・世帯数の動向でございます。平成17年から令和2年までは、それぞれ増加傾向にあります。仙台都市圏14市町村の比較では人口増減率は最も高い状況となっております。

続いて11ページをご覧ください。通勤・通学の状況でございます。令和2年の通勤の状況につきましては、表をご覧ください。本市から他市町村への流出率が69.3%、本市への流入率が52.8%で流出超過となっております。通勤先としては、仙台市泉区、青葉区、大和町が多くなっております。通学の状況につきましては、通勤と同様に本市から他市町村へ通学する学生が多い状況となっております。流出率は72.4%、流入率33.3%で、こちらも流出超過でございます。通学先としては、仙台市泉区、青葉区、宮城野区への通学が多くなっている状況でございます。

続いて、12ページをご覧ください。土地利用の特性につきましては、令和4年の土地利用区分別の土地面積としては、一番大きい割合となっている森林が、全体の42.0%で、田畑の農地と合わせると、全体の5割以上を占めており、都市と自然が調和された土地利用となっているものと考えております。

続いて、13ページをご覧ください。経済・産業の特性として、市内総生産、一人当たり市民所得、14ページでは産業構成の割合を掲載しております。

続いて15ページをご覧ください。事業所数及び従事者数につきましては、平成8年から令和3年にかけて、どちらも増加基調で推移しております。令和3年の産業分類別構成比は16ページに記載のとおりでございます。

続いて、17ページをご覧ください。市民ニーズの把握・整理としまして、市民アンケート調査を実

施いたしました。現在、詳細は集計中でございますが、速報値として、概要についてご説明いたします。

市民アンケート調査は、第2次富谷市総合計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として令和6年10月に実施しております。対象として18歳以上の市民2,000人を無作為抽出して、調査を依頼しております。年代、お住まいの地区をまんべんなく抽出しております。回答数は、2,000人のうち1,226票の回答をいただいております。回答者の属性としましては、男性が40%、女性が57.7%ということで、女性からの回答が多くなっております。年代別の回答としては、50代、70代の方に多くご回答いただいております。

続いて、18ページをご覧ください。富谷市への愛着、暮らしやすさに関する調査でございます。富谷市に「愛着を感じている」、「やや感じている」が86.6%と大半を占めております。どのようなところに愛着を感じるのかにつきましては、「買い物・病院等の便利さ」が58.9%、「安全・安心な暮らし」が44.0%、その他、自然環境、街並み・景観と続いております。

続いて、19ページをご覧ください。富谷市の暮らしやすさにつきましては、「今後も暮らしたい」と回答した方が84.7%と高い割合となっております。理由としては、「住環境が良い」が53.3%、「買い物や外食、娯楽に便利」の48.6%「自然環境が良い」の31.4%と続いております。

続いて、20ページになりますが、富谷市が目指すまちづくりの方向性に関する調査でございます。富谷市が今後どのようなまちづくりを目指すべきかの設問となっております。結果としては、「道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち」が61.5%、次に「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち」が45.8%と続いております。

続いて、21ページでは、富谷市が今後行う事業として、必要だと思う事業に関する調査でございます。こちらは、「仙台市泉中央までの交通利便性の確保」が73.3%と最も多くなっております。次に「安全・安心な暮らしの確保」が42.0%、総合病院などの医療施設の誘致と続いております。市民アンケート調査の速報については以上でございます。

続いて、22ページをご覧ください。施策分野別団体ヒアリング調査の概要になります。総合計画に関連する商工業・教育・福祉等の各分野別に、本市の課題、市内で事業活動を行う事業者・団体等のニーズを把握することを目的として、9つの事業者・団体等に、ヒアリング調査を実施しております。本日、ご参加いただいている委員の皆さまにもご協力いただき、ありがとうございました。

ヒアリング項目の1つ目、事業活動における課題と行政に望む支援策についてでございます。事業所が抱えている課題としまして、原材料高騰等による収益性低下への対策、少子高齢化を見据えた担い手づくりが必要などのご意見をいただいております。2つ目の事業活動の拠点としての富谷市の「強み」と「弱み」につきましては、「強み」として、東北一の経済圏である仙台市と隣接していること、起業・創業支援にかかる施設が充実していること、地域住民の市民力が高いこと、などが挙げられております。「弱み」としては、公共交通の利便性が悪い、創業支援にかかる補助金制度が少ないという意見をいただき、デマンド交通の拡大、車での移動のしやすさの追求することが必要などの意見が挙げられております。

3つ目の富谷市の将来の都市像につきましては、人口減少や少子高齢化が更に進むことで、介護予防事業等の充実、新興住宅地と過疎化地域との格差是正などが挙げられております。本市が目指すべき将来像・将来性として、すべての世代が、安全・安心に楽しく元気に暮らし続けられるまちづくり、IT技術を駆使した先進的な取組の実現などの多くのご意見をいただいております。

続いて、23ページになりますが、4つ目の富谷市のこれまでの取組や今後のまちづくりにつきましては、産業振興に関する取組については、積極的な企業誘致が必要ではないか、地域のイメージ戦略については、ブルーベリー、ハチミツなどの特産品のイメージが定着しているとの意見があった一方で、そういった特産品の供給体制が確立していないことや誰もがわかる富谷名物が必要ではないかのご意見などをいただきました。今回のヒアリング調査でいただいたご意見につきましては、今後の取組として反映していきたいと考えております。

続いて、24ページをご覧ください。市民ワークショップの概要でございます。今後の富谷市のあるべき姿等について、自由に話し合える場として、全3回のワークショップを開催いたします。富谷市の未来について自由に議論していただき、将来像のイメージ、方向性を共有することを目的としております。ワークショップでは、宮城大学の石内准教授や学生さんにファシリテーターとしてご協力いただきます。開催日時は、今週末の12月21日（土）に第1回目を市役所で開催いたします。年明けの1月11日、2月9日に2回目、3回目を東向陽台公民館で開催する予定でございます。参加者は40名程度を予定しております。お手元にワークショップのチラシを配布させていただきましたが、現在も募集しておりますので、関心がある方がいらっしゃれば、お声かけいただければと考えております。

続いて、25ページをご覧ください。富谷市総合計画の検証について、ご説明いたします。現行の富谷市総合計画では、後期基本計画で、各施策の進捗管理として47項目の目標指標を設定しております。実績値を把握できていない1項目を除いた46項目のうち、達成度90%以上の項目は26項目となっております。1つ目の暮らしを自慢できるまちにつきましては、目標指標が15項目のうち達成度90%以上の項目は10項目となっております。これまでの主な取組としましては、点線の枠に記載のとおり、高屋敷西工業団地の整備・200haの成田二期北工業団地の整備による企業立地の促進、起業支援等の拠点施設「TOMI+」「荷宿」の整備、富谷塾を通じた起業・創業者への支援等、記載した取組を進めてきたところでございます。

続いて、26ページの上段になりますが、2つ目の教育と子育て環境を誇るまちにつきましては、目標指標9項目のうち、達成度90%以上の項目は4項目となっております。子どもが笑顔で安心して暮らせる環境づくりを目指して、子どもにやさしいまちづくりを進めております。主な取組として、国内で初めて、子どもにやさしいまちづくり実践自治体として承認されております。令和2年には待機児童ゼロを達成して、現在、5年連続で継続中でございます。その他、記載のとおりでございます。

3つ目の元気と温かい心で支えるまちにつきましては、目標指標12項目のうち、達成度90%以上の項目は5項目となっております。あらゆる世代が元気に暮らし、高齢者や障がい者も安心して暮らせるような環境づくりを目指して、取組を進めております。主な取組としては、高齢者・障がい者の外出支援乗車券「とみばす」の導入、福祉タクシー利用券助成等に取り組んできたところでございます。

続いて、27ページになりますが4つ目の市民の思いを協働でつくるまちにつきましては、目標指標が13項目、達成度90%以上の項目は7項目となっております。主な取組としては、とみやわくわく市民会議、とみやわくわくミーティング等の開催、ゼロカーボンシティ宣言等の環境政策の他、こちらに記載の取組を行っております。

続いて、28ページをご覧ください。ここまでご説明いたしました、本市を取り巻く環境、市民ニーズや各種調査等から得られた現状分析結果を踏まえまして、これからのまちづくりにおける主要課題として、7つの課題を設定いたしました。1つ目の産業・観光・歴史分野の課題としては、製造業等の企業誘致による働く場所の確保、市内企業の育成、稼ぐ力の向上、富谷塾等を通じた地域で活躍する

人材の更なる育成・支援等とし、次の都市基盤の課題としては、新たな宅地開発や住環境整備、新たな商業地域の開発、DXの促進による経済や市民生活の質の向上等を課題としております。

続いて、29ページ以降も、子育て・学校教育分野、健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化などの7つの分野ごとに、本市の将来像を目指す上での課題として記載しております。こういった課題について、解決に向けた施策を計画に反映したいと考えております。富谷市の現状及び課題につきましては、説明は以上となります。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。これからの政策的な課題とアンケートについては現状ということで、色々と感覚的なズレなどがあるかと思いますが、こちらにつきましては後ほど議論いただければと思います。

ここで、次の議題は第2次総合計画の将来像になりますので、その議題に入る前に、若生市長のほうから総合計画への想いにつきまして、改めてお話をいただければと思います。質問につきましては、この後一括でいただきますので、よろしくお願いします。

(若生市長)

はい、ありがとうございます。私から新しい総合計画に向けてということについてお話をさせていただきます。

まずは、第1期総合計画の10年間のスタートは、我々にとって市制施行という初めての世界に飛び込むという状況にありました。そういう意味では、なかなか確信を持てない中ではありましたが、市民の皆さまの意見を聞きながら策定した総合計画に基づいて一つひとつ取組を実施してきました。まだ、計画期間の途中ですが、そのような形で取り組んできた8年間であったと思います。

おかげさまで、先程もお話したとおり富谷市は自治体評価ランキングなど様々な形で評価されます。私としては、富谷市には間違いなく伸びしろがあると確信を持てる期間でもあったと感じております。他の自治体でも色々と課題は抱えているわけですが、そのような中でも富谷市は頑張ればまだまだ成長できる伸びしろがあると考えておりますし、それを実現していける力があると考えているところでございます。

富谷市は、皆さまご承知のとおり明治22年に富谷村が誕生してから135年間一度も合併することなく村から町へ、町から市へ単独で発展してきた全国でも稀な自治体です。宮城県で最も人口が少ない村という時期があったにもかかわらず、1960年代からずっと人口が増え続けており、また、国立社会保障・人口問題研究所が前々回公表した将来人口推計よれば、東北地方で唯一富谷市は2040年まで人口が増え続けるとされています。少子高齢化社会の中で、1960年から2060年までの「100年間ひとが増え続けるまち」という目標を掲げられる自治体は全国でも数少ないと考えており、私としてはまずは、「100年間ひとが増え続けるまち」の実現については大きな目標として掲げるべきだと思っております。また、今住んでいる皆さまが富谷市に住んで良かった、あるいは誰もが住みたくなるまちと思えるような取組を一つひとつ実現していくことが、「100年間ひとが増え続けるまち」の実現に繋がっていくものと考えております。

かつて昭和の大合併、平成の大合併がありましたが、特に昭和の大合併につきましては、昭和28年に国が合併促進法を定め、全国の小さな町や村を合併させ自治体の数を減らす趣旨でありました。当

時の富谷村は非常に小さな村でありましたが、全村民が集まる村民集会を開き、今後の方向性について議論を行いました。そこでは、「小さくても良いから自立自尊の道を歩むべし」という合意に至り、そしてそれをもって議会でも全会一致で議決を得ておりますが、その際「この合意を後世に伝えるべし」という確認までされているという歴史があります。私は、先人の皆さまが小さくても良いから自立自尊の道を歩んでいくんだという決意をしっかりと受け継いできたからこそ、現在の富谷市の発展に繋がっているものと考えておりますし、この志はしっかりと受け継いでいきたいと思っているところでございます。

次の総合計画の10年間は、富谷市の更なる飛躍に向けて一步踏み出すものになればと期待をしているところでございます。私は、常々「市民力の高さ」が富谷市の誇りだと思っております。これまでも使ってきましたが、「オールとみや」というフレーズには「市民のために、市民と共に、市民が主役のまちづくり」を進めるという想いが込められています。市民が主役であり、我々行政は市民の皆さまが市民力を生かして様々な活動を行う中で、その実現をサポートする役割をしっかりと果たしていくべきだと考えております。もちろん、行政では高齢化社会の中でも誰もが安心して生涯を過ごせるように社会保障はしっかりと責任を持って行っていくべきだと考えております。

先程、市民アンケートの報告がありましたが、「今後も富谷市で暮らしたい」という意向が84.7%ということで、今回も高い数値をいただき、まずはほっとしているところでございます。前回よりも若干減ってはいるものの、約85%という多くの皆さまが今後も富谷市に住み続けたいという数値でありますので、大変うれしく思います。逆にこの想いをしっかりと実現していくためには、現状の課題を解決する必要があります。「目指すべきまちづくりの方向性」についての回答では富谷市の弱点でもある「公共交通」が一つの方向性としてしっかりと数字にも表れておりますし、特に次の設問にある「これから必要な事業」においても「泉中央駅までの交通利便性の確保」が73.3%の回答をいただいております。この泉中央駅までの交通の利便性の確保については大きな事業になり、特に仙台市の了解が得られなければ実現できないことでもあります。このような市民の皆さまの想いを受けて実現しなければならないと思っております。これまでも地下鉄の延伸、またはBRT、ガイドウェイ・トランジットを含め新たな公共交通システムの調査検討を進めてきているところであり、また、今回新たな交通計画の検討委員会の中では新たに都市型のロープウェイに関する調査研究の実施に向けて提案をさせていただいております。やはり、市民の皆さまの想いをしっかりと受け止めて解決していくためには、この公共交通の課題は避けて通るわけにはいかないと考えております。

また、富谷市に住み続けたい大きな理由として、自然環境の良さが挙げられています。この緑豊かな自然環境をいかにして守っていくのかということも大事にしていかなければならないと考えております。

富谷市が発展し、「100年間ひとが増え続けるまち」を実現していくためには、人口が自然増で増えていくことが理想ではあるものの自然増には限界があるため、新しい人達を受け入れるための宅地造成や職場の確保に向けた企業誘致を含め、人口の社会増に向けた取組を進めていくことが必要であると考えております。おかげさまで高屋敷西工業団地は短期間で完売となりまして、先日は進出企業であるNTKセラテックの第一工場の安全祈願祭が行われており、大変大きな期待が寄せられているところでございます。更に今回、200haという大きな工業団地である成田二期北工業団地の整備に向けてスタートしたところであります。自然を守ったほうが良いという声もあるかもしれませんが、富谷市には十分に緑豊かな環境がありますし、富谷市の発展には住居・職場の環境を整えていくことは

ある意味避けては通れないものであり、必要な施策であると考えております。自然環境と住居・職場の環境の両方が伴っていることが重要だと考えております。

また、企業誘致だけで決して良いと考えておりません。自ら起業家を育てるということで実施している起業家育成事業の富谷塾では、現在7期生として220名を超える方が参加しています。行政が行っている起業塾なのになぜこれほど人が集まるのかということで全国から大変注目を集めておりますが、今回の富谷塾には東京から「熱意ある地方創生ベンチャー連合」の皆さんがスタディーツアーということで現地まで視察に来ることになっています。人づくりには時間が掛かりますが、私は人づくりもしっかりと行っていく必要があると思っております。

それから、富谷市がこれまでも力を入れて取り組んできた「子どもにやさしいまちづくり」は、一番の柱であると思っております。「子どもにやさしいまちづくり」というものは、これからの10年間も一番中心のど真ん中に据えて、未来を担う子ども達をしっかりと富谷市の宝として育てていくものでありますので、次期総合計画の中でも中心にしていだければと思っております。

挙げていけばきりがありませんが、私はとにかく市民の皆さまと共に、市民の皆さまが夢と希望を持って進める新たな10年にしたい。何とかこの総合計画で市民の皆さんと共有できる、夢を描けるような計画ができればありがたいと思っていますところでございます。

余談にはなりますが、個別の計画で「森林再生プロジェクト」を実施したいと考えております。私が子どもの頃、先人である市内のおじいちゃん、お父さん達が子や孫の将来のためにということで一生懸命杉の木を植林してくれました。ところが、時代の流れで森林を管理する人達もいなくなり、このままだと先人の皆さまが一生懸命汗水流して植えてくれた杉林が逆に災害に繋がる危険性が及ぶことも考えられます。当時は50年先を目据えて植林をされたわけですが、まずは一旦全て回収をさせていただいて、そして新たに杉ではなく蜜源になるような桜やアカシアといった木を植えて、自然林に再生してきたいという夢も持っております。

最後にちょっとした夢もお話させていただきましたが、このような取組をぜひ皆さまからの意見も頂戴しながらしっかりと形にしていければと考えております。よろしくお願いします。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。市長の熱い想いが皆さまに届いたと思います。

今、お話をお伺いして感じたことは、「オールとみや」ということがとても大事ということです。ゲディスバーグでのリンカーンの「人民の、人民による、人民のための政治」というスピーチを思い出しましたが、政治の部分をまちづくりに変えて考えていかなければならないということだと思います。

次の10年間で何をやるかということですが、市制施行からの8年で本当に基盤を作られたと思いますので、その意味では8年間で富谷市のポテンシャルが可視化されたと思います。それをしっかりと分析をして、そこから夢のある事業をどう作っていくかということだと思います。

田園都市の概念を私がずっと申し上げていますが、田園都市はイギリスで自立した都市を作るという構想から生まれています。はじめは若干ベッドタウンのようになってしまいましたが、自立した産業を作ることによって美しい自然の中で豊かで文化的な暮らしができる、自然を残しながら産業を作っていくということです。今の若生市長のお話はまさに東北における田園都市の実現を表明されたと感じます。富谷市の一番素晴らしいところは、やはり自然と共存しながらまちが成り立っているところだと思います。先日も大亀山森林公園の展望台に登りまして、本当に素晴らしい景色でしたが、

多くの市民の方々はまだまだ富谷市の美しい自然を存分に味わえる環境にはなっていないと思いますので、森林再生も然りですが、一丸となってしっかり取り組む必要があると思います。公共交通の課題もありますが、それも含めて富谷市のポテンシャルを生かした戦略をしっかりと練り上げて飛躍への10年となるようにしなければなりません。

もう一つは、子ども達の未来になります。やはり持続可能な都市というものは将来に渡って次世代に受け継いでいくものになりますので、「子どもにやさしいまちづくり」の部分もしっかりと議論に入れていく必要があると思います。以上のような想いを若生市長からお話をいただきました。

(2) 第2次富谷市総合計画の将来像及び基本目標（案）について

(風見会長)

それでは、議事の(2) 第2次富谷市総合計画の将来像及び基本目標（案）について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、第2次富谷市総合計画の将来像及び基本目標案についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。

こちらは、現在の総合計画の基本構想と第2次総合計画の基本構想案を比較した表となっております。上からまちの将来像、基本理念、基本目標の順で記載しております。

まず、先程市長からもお話がありましたとおり、将来像につきましては、「住みたくなるまち日本一100年間ひとが増え続けるまち」を継承することとし、一部「村から町へ 町から市へ」の文言は削除しております。

次に基本理念につきましては、前回の審議会での委員の皆さまのご意見や、現計画の理念、市民憲章、市民歌などからキーワードとなる言葉を記載しております。理念につきましては、将来像である住みたくなるまち日本一とはどのようなまちなのか、皆さまからご意見をいただきながら作り上げていければと考えておりましたので、どうぞよろしくお願いします。

次に基本目標につきましては、これまでの計画においては基本方針としていたものを、より具体的な基本目標という形で言い換えてございます。また、現計画では4つの基本方針としていたものを、分かりやすく細分化し、7つの分野に分けたものでございます。

7つの分野のご説明に入ります前に、まず、左側の部分、7つの分野すべての目標にまたがる形で、現計画の基本理念である「オールとみやで創る」を入れさせていただいております。これはすべての目標において、行政だけではなく、市民の皆さま、地域、企業などあらゆる皆さまが全員参加で目標達成に取り組んでいきたいという想いからこのような形にさせていただいております。

続いて目標でございますが、1つ目は「活力と魅力があふれるまち」といたしまして、現計画の基本方針1から産業・観光の分野と基本方針2の歴史に関する分野で構成しております。主な施策としましては、企業誘致による雇用の創出や、起業・創業の支援、農業生産者への支援、しんまち地区の活性化や歴史・文化の承継による愛着の醸成などがございます。

2つ目は「快適で住みよいまち」といたしまして、現計画の基本方針1の都市基盤の分野で構成しております。主な施策としましては、公共交通の充実や、新しい基幹公共交通システムの整備、仙台北

部道路などの整備促進や住みここの良さを感じる住環境の形成などがございます。

3つ目は「子どもと子育てにやさしいまち」といたしまして、現計画の基本方針2の子育て支援・学校教育の分野で構成しております。主な施策としましては、子育て環境の充実や、豊かな心や健やかな体を育む教育環境づくりなどがございます。

4つ目は「誰もが健康で生き生きと暮らせるまち」といたしまして、現計画の基本方針3の健康・福祉・医療の分野と、基本方針2の生涯学習・スポーツ・芸術文化の分野で構成しております。主な施策としましては、子どもから高齢者まですべての世代の健康づくりの推進や、高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域づくり、生涯学習の拠点となる富谷市複合図書館の充実などがございます。

5つ目は「安全安心で誰もが暮らしやすいまち」といたしまして、現計画の基本方針4の防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化の分野で構成しております。主な施策としましては、防災・減災体制の充実や、防犯体制の確立、多様な立場や考え方を尊重する男女共同や多文化共生の推進などがございます。

6つ目は「未来へつなぐ環境にやさしいまち」といたしまして、現計画の基本方針1の自然環境の分野と基本方針4のゼロカーボン・環境衛生の分野で構成しております。主な施策としましては、自然環境の保全や脱炭素社会への取組、ごみの再資源化や環境美化の推進などがございます。

7つ目は「協働でつくる持続可能なまち」といたしまして、現計画の基本方針4の行財政・市民協働・広報広聴の分野で構成しております。主な施策としましては、行財政経営や、市政への市民参加の促進、広報広聴機能の充実などがございます。

以上の7つの目標に取り組むことにより、将来像である住みたくなるまち日本一を目指していきたいと考えております。

なお、資料3につきましては、先程ご説明いたしました富谷市の現状と課題、それから今ご説明させていただきました富谷市の将来像についてとりまとめたものとなっておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

説明は以上でございます。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。将来像及び基本目標の案ということでございますけれども、これまでの現状を踏まえた7つの目標を設定しており、これから実際にどういったプロジェクト、事業を起こしていくのかということになろうかと思います。資料3につきましては、そのあたりにも触れているかと思います。

それでは、ご説明や先程の市長の想いも含めましてご意見・ご質問のいただきたいと思います。席順で一巡させていただく形でよろしいでしょうか。佐々木委員からお願いします。

(佐々木委員)

はい、資料からこれまでの作業が非常に充実しているなと思いました。今はまだ熟読ができていないところではありますが、市民が見た時に「100年間ひとが増え続けるまち」ということで何か希望を持たせる、あるいは何が変わったのかというところが気になるのかなと思います。聞いておりました。

思いつきで申し訳ないのですが、今回基本方針の4項目から基本目標の7項目に変わっており、「オ

ールとみや」で進めるという形になっていますが、例えば、市民が環境プロジェクトに携わっていくとか、あるいは起業家が工場のほうに進出していくなど、そういった1から7の項目の循環や共創のようなものが描けると、ここが変わったとじてもらえるのではないのでしょうか。もちろん、今回大幅に変えるという話ではなく、これまで取り組まれてきたことをある意味、成長から成熟させていくことかと思いますが、何か市民に期待を抱かせるようなものも重要だと思います。この「オールとみや」で連携してインパクトを出していくんだというように1から7の項目を上手く繋げれば、先程の市長のお話にも合致してくるのではないかと思いますし、総合計画を見る人もこうやって連携して、これとこれを連携させてやっていくんだということが見えるのかなと思います。思いつきでの発言ではありますが、恐らくそういったことがこれからの富谷市では行われていくものと思っております。作業する方は大変なんです、よろしくお願いします。

(風見会長)

ありがとうございます。可視化するという事だと思しますので、しっかりと続けていただければと思います。

(高橋委員)

色々ご説明ありがとうございます。「100年間ひとが増え続けるまち」ということでありますが、人口が増えていく中で企業誘致のお話などがありました。その企業で働く方達が富谷市に入ってきて、その後どういう暮らし方をしていくかということ考えると、住民となって定着して暮らしていくという流れになれば人口としては増えていきますが、そうでない場合には企業誘致をしても上手い具合に人口は増えていかないということもあります。やはり入って来た方達が定着して住んでいくというように思えるまちづくりが、これからも人口を増やしていく上ではとても大事になってくるのではないかと思います。

その上で、皆さん住んでいく中ではどんどん高齢化していくわけですので、やはりどうしても医療や保健の充実を図っていくということも大事ですし、あとは安心して子どもを育てられる環境ということで、女性も働きながら子どもを育てられるといったことも大事だと思います。

総合計画は10年先までのことではありますが、その先の90年も見据えて継続していけるような、人々が定着するようなまちづくりを考えた時に、富谷市の何が魅力なのかということを総合計画の中にも入れ込んでいければ良いのではないかと思います。まだ、まとまっていないところではありますが、色々検討する余地があるかと思います。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。高橋委員は看護の先生ですので、やはりロングライフで誕生から永眠まで、生涯にわたって住み続けられるまちづくりが必要ではないかというお話かと思います。事務局でも、よろしくお願いします。

(阿部委員)

こんにちは、阿部でございます。今、総合計画が第1次から第2次になるということで、先程若生市長からは「オールとみや」で取り組んでいくということ、また、基本方針が4つから基本目標の7つに

分かりやすく変わるというご説明がありました。

私は、総合計画審議会への出席は2回目になりますが、前は商工会の支部長としての立場で発言をさせていただきましたが、市になってから8周年花火プロジェクトの開催にあたって実行委員会の会長もやらせていただきました。今回は別の立場からの話になってしまうかもしれません。

5万数千人の市民の多くが成田地区や明石台地区の住宅団地に住んでいて子ども達も多い中で、私はずっと「とみやど」周辺のしんまち地区に住んでおりますが、富ヶ丘や鷹乃杜のようにどちらかというと年配の諸先輩方が多く住んでおります。「子どもにやさしいまちづくり」も大事ですが、「高齢者にもやさしいまちづくり」で人と人をつなぐようなまちづくりが本当の意味でも「オールとみや」ではないかと思えます。

当然、富谷市、事務局ありきの話ではありますが、例えば町内会の会議等の中でも、ちょっとでも総合計画について皆さんに理解していただければ、もっと分かりやすい総合計画になっていくのではないかと思います。本日、行政区長の方もいらっしゃいますが、町内会の会議等の中でもこういったまちづくりをしていきたいんだということを知ってもらえれば、「なるほど、住宅団地はこうだけど、旧地区はこうなんだ」といった形で理解してもらえるのではないかと思います。私も審議会に出るようになって正直初めて総合計画について理解したところもあります。今回、ワークショップ等でも皆さんの意見を聞いていくかとは思いますが、行政の仕組みの中で一番分かりやすい町内会という組織があるはずですので、そういった中でも総合計画というものがあるんだと理解してもらえれば皆さんの心も一つになっていくのではないかと思います。部分があります。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。古い言葉で草の根と言いますか、それぞれの人達がしっかりと理解して手を繋いでいくということかと思えます。

(大川原委員)

キスケフーズの大川原と申します。牛タンの製造物販がメインの会社をしております。縁があつて会社を富谷市に移転して10年になりました。ちょうど第1次の総合計画と共にということになります。当社の従業員も富谷市出身であり、富谷市在住の方が増えてまいりました。少し話を聞いてみると、アンケートの結果にあるようなことを皆さんおっしゃっていて、非常に富谷市に愛着があるということで、当社としては安定して長く働いてもらえる方が増えております。

元々、工場がメインですので、なかなか市民の皆さんとの接点という点では求人といったところだけでしたが、ようやくコロナも落ち着いてきて、また富谷市のご協力で駐車場も確保できましたので、大清水地区の会社の隣に飲食店を併設できる運びとなりました。先月着工したところで来年の6月中旬にはオープンしますので、より一層地元のお客様との接点が増えますので、その意味では「100年間ひとが増え続けるまち」というのは非常に魅力的なマーケットでありますし、仙台市からも近いので観光で来られるお客様も誘致できるのではないかと期待しております。

それと併せて、先日、富谷中学校の西成田教室から工場見学をさせてほしいというご依頼がありまして、今まではコロナもあつてお断りしていたのですが、落ち着いてきたこともありまして、先日お引き受けをいたしました。皆さん非常に喜んでおられて、当然、加工前の牛タンを見る機会などはなかなか無いわけでありまして、皆さん衝撃を受けておられたようです。私としては、将来地元に残る

方が当社で働いて仲間になってくれることを期待していますし、地元にこういう企業があるんだということを知ってもらだけでも必ず将来のネタになるのではないかとことを含めて、このような機会を増やしていきたいと考えております。少しでも子ども達の教育というところに携われるのであればありがたいと思っております。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。職業体験と言いますか、現場を見て子ども達が自分の職業イメージを持つことは非常に大切かと思えます。ぜひ、事業として今後の広がり期待しています。よろしくお願いします。

(石井委員)

仙台中心部のまちづくりに携わっております、コムワーク・プロジェクトの石井と申します。前回の審議会でぜひ若生市長の想いをお聞かせ願いたいというお話をさせていただきましたが、本日は若生市長に非常に熱く語っていただき、本当にありがとうございました。

総合計画ですので、なかなか具体的にはいかず、色々な部分にも触れる形になろうかと思います。今この第1次総合計画と第2次総合計画の比較表を見ておまして、先程若生市長がおっしゃったように第1次の10年は市制施行後ということでまだ様子見ということもあったかと思いますが、第2次の10年間はまだ伸びしろがあるということと、それを実現する力が富谷市にはあるんだということをお聞きしましたので、こういう言い方はあれですけども、市長の想いとこの資料の文面にちょっと温度差を感じてしまっています。

若生市長がおっしゃった中で、私としては3点特徴的なものがあったと思います。1つ目が、「市民が主役」ということです。なぜこだわっていらっしゃるかというと、昭和の大合併の時に富谷村の住民の皆さんは合併をしないで、小さくても自立自尊するんだという、いわゆるシビックプライド「富谷プライド」になろうかと思います。そういう市民が主役で市民と共にということが1つ目で非常に感じたことです。2つ目が、「子どもにやさしい」ということです。100年間ひとが増え続けるまちを目指す上では子どもにやさしいまちでなければ不可能だと思います。今日も中学生が来ておりますが、これが特徴の2つ目だと思います。3つ目が、風見会長もおっしゃっている「田園都市」ということになります。つまり、自然と共存しながら成長できるということですが、色々な自治体が田園都市という言葉を使っておりますけれども、まさに富谷市でなければ実現できない部分があるのではないかと思います。

これまで4つの基本方針が、第2次では7つの基本目標になっておりますが、もう少し尖がらせても良いのではという気がしています。ですので、市民の皆さんも第1次があつて第2次を見てちょっと変わったなと思うような、もちろん劇的に変える必要はなく第1次の延長線上にはあるのですが、少しは違うぞという部分があったほうがいわゆる伸びしろがあるという部分にも繋がるかと思います。また、総合計画は今後10年間の目標の根底になるものですので基本目標については市長の想いを思い切って具現化するような形で尖がらせたほうが良いと思います。すみません、言うは易しで大変かと思いますが、よろしくお願いします。

(風見会長)

はい、激励とビジョンをご提示いただき、ありがとうございました。尖っていくことは大事だと思います。総合計画は全般をカバーしなければいけません、その中でも何が次の本当の目標になるのかということをこの中でしっかりと明らかにしていければ良いと思います。

(菅原委員)

菅原です。よろしくお願いします。先程の若生市長のお話にもありましたが、富谷市の一番の優位な所は「市民力の高さ」なのかなと考えております。この市民力の高さは、目の前に現れているものは一部かもしれません。まだまだ沢山の方々の市民力の高さが隠されている部分も多いのではないかと考えていて、一人ひとりの力を表面化していくことができれば、もっともっと「オールとみや」のまちづくりが可能となってくるのではないかと感じています。

また、基本目標7の「協働でつくる持続可能なまち」についてですが、これから少子高齢化が進んでいく中では、今富谷市に住んでいる方達の力を最大限発揮して、富谷市を更に盛り立てていく必要があると思います。今からこの協働でつくるまちづくりに力を入れていくことで10年後にはもっと素晴らしい富谷市になるのではと思ったところです。

もう一つ、基本目標4の「誰もが健康で生き生きと暮らせるまち」についてですが、確かに健康というキーワードは誰にでも当てはまり素晴らしいものではありませんが、中には体調不良や障がいを抱えて思うように心身の活動ができない方がいると思うので、そういった方達への配慮として健康ではない別な言い方でないと言葉が独り歩きしそうかなと感じられました。市民アンケートには「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち」を望みますとありますので、そういった部分は十分反映されているかと思いますが、もう少し配慮された文言でも良いかと思いました。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。一つは市民力のお話でした。市民力は富谷市が一番大事にしてきたことでありますし、市民力をいかに引き出すかということについてより突っ込んだ部分、先程の石井委員のご意見にもありましたが、より尖がった部分があっても良いように思います。

もう一つは、健康で生き生きという表現に関してのご意見でしたが、私達の社会ではノーマライゼーションやインクルーシブな社会をどう作るかということだと思います。社会的弱者という言葉は好きではないのですが、実際に人間は健康な時には分からない、弱くなって初めて分かることがほとんどですので、そういう意味ではインクルーシブ、包括的にあらゆる人が快適に過ごせるまちは若生市長も目指しておられると思いますし、それを具体的に施策にも落とし込んでいければと思いますので、事務局もよろしくお願いします。

(富田委員)

こんにちは。明石台でフリーランスで働いています、富田です。よろしくお願いします。今回、第1次、第2次の総合計画の比較表を拝見させていただきまして、第1次総合計画が始まった当時は人口が増えるのかと懐疑心があったのも正直なところですが、データでも実際に人口が増えているのを確認して、これは行政の方々の努力の賜物だと思いますし、市民の皆さまが色々と活動をされてきた結果が繋がっているものと思い、嬉しく感じました。

今回、第2次の将来像には人口の目標については具体的に書かれていませんが、「100年間ひとが増え続けるまち」を目指すということになっています。今の人口減少社会の中で、人を増やしていくとなると他の市町村との間でパイの取り合いになってしまわないかというところがちょっと気になっています。例えば、利府町や大和町のほかの地域から人が流れて来るといったことが、果たして地域全体を見た時に良いことなのかということも正直少し疑問に思うところです。市民アンケートの中にも、富谷市以外の地域との連携を図る必要もあると書かれてあります。これは富谷市の総合計画なので富谷市の話ではありますが、周りの地域との連携についても模索していく政策があっても良いのではと思ったところです。

それから、土地の利用についてですが、私は明石台に住んでいますが、農地を借りて趣味で農作業を行っています。農地の大家さんはご健在なんですけど全然外に出てこれなくなっていて何年も会っておりませんし、ご高齢になられて畑を耕すこともできないということで地域の方がみんなでカバーしているという状況があります。先日、石破総理が食料自給率を高めることは国家の安全保障に繋がるといったことをおっしゃっていました。私も農地を借りて細々とやっておりますが、これは食料自給率の話とはかけ離れているなとも感じましたので、もう少し農地や土地の利用を重視して考えたほうが良いのではないかと考えたところです。私が借りている農地は元々田んぼでしたが、10年以上畑として利用してきたので、おそらくもう一度田んぼに戻してお米を作ることはできないと思います。不可逆的なことが起こっていることを間近で見てとても不安定な気持ちにもなったりします。そう考えると、土地の利用については個人の問題ではなく、自治体なり国なりで考える問題ではないかなと思いますし、今の自然を守る、農地を守るという視点でもう少しプッシュしていても良いのではないかと思います。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。1点目の人口については、富谷市は今幸運な状況にありますけど、これからは人口の減少というものが避けられない中で、人口の量だけでなく質をどう上げていくのが重要だと思います。量はパワーになりますのでとても素晴らしいものなのですが、同時に周辺地域との連携を含めた圏域で考えることも必要だと思います。もちろん若生市長もお考えだと思いますが、元々生活圈というものは1つの自治体だけではないので、そういった経済圏を含めた構想をこれから富谷市でも立てられると思います。

食料自給率に関しては国家的な食料問題の話になりますが、地域に落とした場合は、地産地消の話になると思います。そういった意味では、若生市長はその専門家でありますし、ローカルフーズ、スローフーズ合わせて地産地消をしっかりと徹底するという視点もぜひ政策の中に加えていただければ富谷市らしい政策になるのかなと思います。ありがとうございました。

(村上委員)

私は第1次総合計画を作る際の審議会には出席しておらず、あまり総合計画の中身が分からない中で、計画期間後半の審議会に初めて出席した時に、こうやって10年間富谷市が作られてきたんだということが自分の中で繋がり、理解しました。

今回は次の段階にいく時期になります。先程、若生市長が富谷市には伸びしろがあるとお話されましたが、私も同じ想いでして、これからだなとすごく感じています。ただし、「オールとみや」の部分

については分かりづらいところがあるので、市民にもっと分かりやすく伝える必要があるのではないかと思います。

私が富谷に住んだ当時は、黒川郡ということで4つの町村がある中の1つの町でしたが、その後単独で富谷市になりすごいなと思っていたところですが、市になってから特に色々なところから注目されているということも間近で感じています。人口も増えていきますし、まちづくりや市民活動には私自身も参加していますが、色々な市民活動の下で動いている人が沢山いて、行政のほうが市民についていけなくなるのではないかなと思う位市民活動が活発になってきています。本当に市民力が素晴らしいまちで、他の市町村にはあまりないと感じています。自慢できるまちですし、その結果が住みたくなるまち、そして住み続けたいまちというところに繋がっているのではないかと思います。

資料には色々な分野のことが書かれていて、どうまとめたら良いのかなと思いながら話をしていますが、公共交通の部分は何か行政の方が取り組んでくださることとして、自然環境の分野で自然と都市が一緒になるという「田園都市」に関しては、自分の中ではまだ何をやっていくのかが分かりにくく、見えてきていない部分になります。そのような中で先程、若生市長から「森林再生プロジェクト」のお話がありました。私自身このまちに来て、住み続けたいと思う理由の一つが緑豊かな自然環境になりますが、自然環境を残しつつ私も住んでいる成田地区のような団地と一緒にまちづくりを行っていくことで共に発展していくようになれば良いなという想いで自分でNPOを立ち上げました。森林再生活動から始めましたが、その後森林再生活動から繋がって農業に出会い、農業からミツバチに出会い、ミツバチから子ども達に出会いました。子ども達に出会った時に、何かをこのまちに残したいと自然に思えてきて、子ども達がここに住んで良かった、ここに住み続けたいと思ってもらわなければ発展もないと思ひまして現在の活動に至ります。

富谷市には、大きなまちに比べれば規模は小さいのですが里山が残っています。大きな山は無いけれど里山があるということが富谷市の魅力でもあって、その里山づくりの活動も行っています。最終的に、今年度からは大亀山森林公園の活性化に取り組んでおりまして、大亀山森林公園が富谷市のシンボルであるならば、もっと沢山の人の来てもらいたいと思いながら尽力しています。課題も山積みですが、そこでも助けてくれるのは市民の皆さまで、まず、大亀地区の方々が応援してくれるようになってくれました。公園の管理人さんに話を聞くと、何十年か前までは富谷市からも人が来ていたけれど、最近は富谷市の人ほとんど来なくなってしまっているということでしたので、やはり市民の人達が憩えるような場所を作っていかなければと住んで良かったであるとか、住み続けたいということには繋がらないのではと思ひまして、数十年ぶりの公園の再生に向けて取り組んでおります。ですので、更に行政の方々がサポートしてくれたり、助けてくれるような形になっていくことが、100年間ひとが増え続ける富谷市にも繋がっていくのではないかなと思っております。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。村上委員は市民力の代表のような方ですが、地域で色々な活動や事業を起こしていく、そしてそれを広げていくような人が富谷市にはもっともっと増えていくと思います。市民力をどうやって増強していくのか、「富谷塾」も大変好評ですけれども、更にそれを仕事に発展させていく、あるいは市民力の連携によって増強していくなど、そのあたりについては事務局でもしっかりと政策の提言をいただければと思います。

もう一つの田園都市についてですが、田園都市の構想というのは自然を楽しむ暮らしやアクティブ

ティがいかにあるのかということです、今と一緒に大亀山森林公園の再生に携わらせていただいておりますけれども、あのように素晴らしい大亀山森林公園でも皆さんに知られていかなければ本当の地域の宝になっていきません。若生市長には率先して公園に光を当てていただいております、今後も更なる活用方法について広げていかれるとは思いますが、「とみやど」もそうですが、今後そういったシンボルが生まれてきて、それを市民力で支えているという形が一番の目指す姿かと思います。地域主体による田園都市を目指して、森林公園、里山もそうですが、自然を楽しめるアクティビティや空間づくりをどのように作っていくのかということも審議会の中でもぜひ議論できればと思いますので、事務局もよろしくお願いします。

(小松委員)

私は農業をしております、米農家になりますが、今年はようやく米の価格が上がって赤字がゼロになったという感じです。これまで米の価格が低すぎてやる気をなくしてしまっていたのですが、今年は価格が上がったので少しでも米を作ろうかなと思えた年でした。ただ、米を作る上でも肥料などを使いますが、こういった物の価格も2倍、3倍に上がっています。そのような中、今年も富谷市から補助金をいただきまして、本当にありがたいと思っています。

私達も含めて農家が高齢化してきており、70代、80代の方が多くなっていますが、後継者がいるのかというと、次世代の方は皆さん普通に会社員になってしまっていて、後継者がいない人がほとんどになります。私は宮城県の農業指導士も務めていて、先日は宮城県農業士会の新規就農者の集いがあり参加しましたが、そこには新たに農業をやりたいという就農希望の方がすごく沢山いました。どこで農地を探すのかということがすごく難しくなっているようでしたので、何人かの就農希望の方には富谷においでよというお話をしてきました。その時に、富谷市にはどのような支援制度があるのかという質問をされましたが、何があるのかそのあたりが出てきませんでした。農地は必ず探すから富谷に来てはどうかという話はしてきましたが、農地を自分達で守るためにも色々な意味で若い人達の力が必要ですので、富谷市にはこういう支援があるよというものを作っていただきたいということが希望の1つです。ぜひこれはお願いしたいと思っています。

もう一つ、子育て、学校教育に関してですが、私の孫がスポーツ少年団に入って柔道をしています。今、小学6年生ですが、来年入る富谷中学校には柔道部が無く、続けるために色々話をしていますが、同じスポーツ少年団でも中学校によっては続けられないのはかわいそうだなと思っています。柔道や空手といった色々なスポーツ少年団がありますけれども、中学校に上がると生かすことが出来なくなるのはどうなのかなと思うところがありまして、「子どもにやさしいまち」であるならば中学校に上がってもスポーツ少年団が生かせるような何かがあれば良いなと思ひまして、今日は話をしてみたいと思っております。ぜひお願いできないかと思ひます。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。部活動については事務局からお答えできることはありますか。

(二階堂教育長)

中学校に柔道部が無く、残念な思いをなさっていることを伺いました。中学校も今ある部活動の数は、成立させるためにどうしても子ども達の数によって決まってくるところもありまして、例えば昔

はあったとしても子どもの数が減ってくれば調整をして少しずつ部活動の数も減らすといったこともあります。おそらくそういった経緯もあって柔道部が無いのかなと思います。一方で、クラブが学校の外にあるとすれば、そういったもので続けられるという環境が整うと良いなと思っております。学校現場でも今、部活動の地域展開ということが話題になっておりますが、こちらのほうを富谷市でも進めておりまして、受け皿づくりに力を注いでいるところでございます。そういったことで、希望をすれば学校の外に飛び出して、子ども達が活躍できるような仕組みを整えていきたいと思っております。1年、2年でどうという話ではないのですが、方向性としてはそちらのほうに向かってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(風見会長)

よろしいでしょうか。学校単位だけではなくて地域単位であれば続けていける術を考えていくということで、柔道が強い方が富谷市にもいらっしゃると思っておりますので、検討を進めていただければと思います。

また、1つ目にありました農業につきましては、若生市長も十分ご認識されていらっしゃると思いますが、ものすごく大事なことになります。農業をどうやって活性化させるかについてですが、田園都市の例ではロンドン郊外のケント州ガーデンオブイングランドと呼ばれたところは栽培した花木をロンドンに売ることによって発展しました。そういうことも含めて、大都市があってその周辺の農地をどう使われるのかという構想に本来は組み入れられる話ではありますが、これは周辺市町村も含めた計画をこれから若生市長も作っていかれると思います。里山の美しさというものを残すためには農業の存続しかないわけでありますので、里山の景観の保全や農業をどのようにして維持していくのかについては、観光農業やエコツーリズムなどの農業だけの問題ではなく政策を作っていくべきだと思います。これはぜひ若生市長にもお願いしたいところですし、政策連携になりますので事務局にもご検討いただきたいと思います。

(増田委員)

先日、仙台市の方にお会いした時に、富谷市は色々なことですごく話題になっているよねという話がありました。その後に、みんながすごく楽しそうにやっている印象があるという言葉もありまして、すごく嬉しく思いました。おそらく何かの記事を見ての言葉だと思いますが、記事からでも楽しさが伝わるような市民力があるのかなと思いました。

先程、若生市長から「子どもにやさしいまちづくり」を前面に出したいとおっしゃられました。今日は中学生が来てくれていますが、色々な立場の大人達の熱い想いを聞くだけでもどれだけ勉強になっているのだろうか、どれだけ学びの機会になっているのかと思います。こういった機会を作るのも大事ですし、また、子ども達の声を直接聞く機会も作られて、更にその声を生かすという取組もされていらっしゃるので素晴らしいと思います。

「子どもにやさしいまちづくり」ということを深く考えますと、子どもに耳を傾ける、心を開いて聞くということは実はこれは掲げるというよりも本当は子育ての基本中の基本なのかもしれません。子どもに自由に発想させるということも、孫悟空がお釈迦さまの掌の上にいるように、大人が大きな掌の上で子ども達の話の聞いているという状況がなければならないと思いますし、子ども達の意見に振り回されるような状況になったら本末転倒だと思います。ですので、「子どもにやさしいまちづく

り」ということは、大人がどうあるべきかということを一人生が突きつけられるというものであると私はいつも思っています。私自身は、自分の子ども達に自分の人生を生きてほしいと思うので、そのためには心身ともに健康でいたいと思いますし、そのためにはどう生きたら良いのかを考えています。こうやって「子どもにやさしいまちづくり」を突き詰めて考えていくと、これから高齢化が進んで年寄りが増えてどうしようということではなく、一人ひとりが自分の人生に自覚を持っているすごく尊敬できる大人がいっぱいいるという状況に自然となっていくのではないかと考えています。「子どもにやさしいまちづくり」というと漠然としてしまうかもしれませんが、「子どもにやさしいまちづくり」とはどういうことなのかということについて一度みんなで真剣に考えてみるのがすごく大事だと思っております。

また、基本目標3に学校教育と書いてありますが、こういった教育を子ども達に施すかということと同じくらい大事なのが、先生達が本当に先生になって良かったと思って働いているのかということです。そのためには、保護者の方の理解や市民や地域の方の協力がどうしても必要になります。そうした視点も入れていかないと学校は幸せな現場にはならないと思います。ですので、「子どもにやさしいまちづくり」という一つのテーマだけでも一度真剣にみんなで考えたいと思っているところです。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。まさしくその通りで、女性が元気なまちには魅力があり、それに富谷市は当たるのではないかと思います。先日、スタジオジブリの宮崎駿監督のドキュメンタリーを見ましたが、その中で宮崎監督は子ども達が元気かということが一番大事だとおっしゃってまして、そのためにスタジオジブリを作ったとのことでした。本日は中学生がオブザーバーで来ておりますので、富谷市は子ども達が本当に元気なまちなのかご意見をお聞きしたいと思います。何よりも元気が出るまちということで、実際に元気であるということを知る指標というものは難しいのですが、最終的にはそれを見ればすべてが分かるということだと思います。

学校教育については、全国的に改革が進んでおりますけれども、先程若生市長からもありましたとおり教育に関しては富谷市の根幹だと思いますので、富谷らしい学校改革についても次回に向けて活発な議論ができればと思います。

(新藤委員)

行政区長会の会長としてお話し申し上げます。今年の9月30日に、行政区長会の主催で情報交換会を開催しました。私が議長を務めて各地区の町内会長の皆さんと情報交換を行いましたが、その時に気づいたこと2点お話ししたいと思います。

1点目は、市長が掲げる「オールとみや」の考えを大事にしていくためには、やはり町内会の役割は非常に大事だということです。町内会にもお祭などを手伝いたい人は潜在的に沢山いると思いますが、今まではお祭り当日は役員が協力して運営してきたというのが実態でした。これではなかなか上手く動かないということで、ある町内会では今年度からお手伝いをしてくれるボランティアの募集を行ったということでした。その結果、お祭には15名の応募があり、その後も募集を行った結果、25名まで増えていき、そのうち3名が大学生と高校生であるというお話でした。町内会活動に若い方が加わることは大変大事なことでして、その町内会では毎年行ってきた行事等でもボランティアの方達にアイデア出しを任せて、役員ともコラボしながら実施しているとのことでした。私は非常にこの話に感銘

を受けまして、ぜひこのアイデアを他の町内会でも普及させてほしいというお話をさせていただきました。そういう意味でも、大変有意義な情報交換会であったと感じております。

2点目は、町内会がなぜ必要なのかをもっと見える形で訴えていく機会がほしいということです。この要望は前からありましたが、富谷市では11月号の広報にしっかりと見える形で「住民同士で支え合う！町内会活動とその絆」という特集を掲載していただきました。これが大反響でして、他の地区の町内会長の方からも特集として非常に良かったという話をいただきました。私もインタビューを受けて写真も載りましたが、他の町内会の色々な活動や取組が書かれていましたので、町内会役員の方からもこの特集は非常に参考になったという話がありました。色々な面でそれぞれの町内会でやり方が違いますし人数も違いますが、こういった情報を参考にしながら自分達の町内会に合ったやり方を模索していくことにも繋がります。この特集については個人的にも非常に評価しておりますし、それぞれで特徴のある取組がこういった機会を通じて他にも伝わっていくということが皆さんに伝わったのではないかと思います。

それから、先程の情報交換会が終わった後に実施したアンケートの結果が出ましたが、とても参考になった、参考になったという割合が全体の82%を占めました。実際に、会が終わった後にも他の町内会長から直接、非常に参考になったという言葉もいただいております。こういったことが、市長のおっしゃっている「オールとみや」にも繋がってくると思います。町内会長というものは行政と市民をつなぐパイプ役として大変な力を発揮していかなければならないということを、情報交換会でも皆さんに共有しました。先程、阿部委員からお話がありましたけれども、町内会の会合でも富谷市の総合計画の施策は「オールとみや」でやるということを伝えていきたいと思っております。

(風見会長)

はい、ありがとうございます。町内会が一番の基盤でもありますので、その存在と役割については、若い方や新しく来られた方を含めてしっかりと定着させていくということで、これも総合計画の大事なアクションの一つだと思いますので、事務局でもよろしくお願いします。

それでは、一巡しましたけれども、今までの議論に何か付け加えたいこと、あるいはご意見など何かあれば伺いたいのですがいかがでしょうか。大丈夫そうですか。

ここまでのところで一旦、若生市長から総括をいただければと思います。

(若生市長)

お一人お一人からとても素晴らしいご意見をいただきまして本当にありがとうございます。本日はいただいた意見は全てこれからの計画の中にしっかりと含めていきたいと思っております。

前段の市長の想いというところで言い尽くせなかったことを逆に委員の皆さんからお話いただいて、特に小松委員からは農業に関するお話がありました。私も富谷市の1次産業は何としても守っていかなければならないと思っております、これからも特に担い手をいかに作っていくかということを考える必要があります。かつては地元の後継者が後を継いでいましたが、今ではかなり難しい話になっています。富谷市は特にそうです。そういう意味では、外から農業をやってみたいという志を持つ若い方々を受入れる環境を整えていく必要があると思います。特に富谷市は新しい方を受け入れられる環境が元々あると思いますので、1次産業の担い手である農家の土地をしっかりと受け継いでもらえるような取組を富谷発ということで実施していきたいと改めて思った次第です。

委員の皆さまから出たご意見を一つひとつ総合計画に盛り込んでしっかりと形にしていくことが重要だと考えておりますし、新たな10年に向けて本日も非常に貴重なご意見をいただいたと思っております。ありがとうございました。

(風見会長)

はい、ありがとうございました。皆さまから活発なご意見をいただきました。今日のご意見は多方面にわたるものであると同時に、富谷らしい尖がった部分をどうするのかという点についてヒントになるものであったと思います。田園都市のこと、子ども達のこと、農業のこともありましたし、市民力や町内会についてのご意見もありました。また、ロングライフや住みやすさといったご意見も踏まえて次の審議会に向けて計画の中に入れ込んでいただいて具現化していただければと思います。

(佐々木委員)

最後に思いついてしまいましたので、お話をさせていただきます。

皆さんの意見を一巡でお聞きして、はじめはそれぞれの基本目標を連携させることで何かが見えてくるのかなとも思っていたのですが、なかなかここから持っていくことは難しいのかなとも思ったところです。ただ、皆さんのお話を聞いていまして、皆さんの想いというものがものすごく良いので、場合によってはその想いやアイデアをそのまま写真やイラストとしてそのまま入れてしまうとか、何かしら今のご意見を直接的に生かすようなことがあっても面白いのではと思いました。この通りやっていくか、やっていかないかは別としても、何かしら皆さんの強い想いが反映されているということが今回の総合計画の一つの目玉になるのではないかと思います。今、言わないかと思ひまして、余計なことかもしれませんが発言させていただきました。

(風見会長)

ありがとうございます。全くその通りだと思います。まとめ方は色々あるとして、単純な議事録ではなく、アイデアマップとかそういったものということでしょうか。

(佐々木委員)

例えば、委員の似顔絵を描いて、ご意見をそのまま計画に載せるような形でインパクトがあるほうが良いのではないかと思います。とにかく皆さんのパワーがどう伝わるかということが今回の総合計画の最大のポイントではないかなと思って聞いておりました。

(風見会長)

そういう意味では、皆さんの顔写真付きで吹き出しでも入れていただいて。言ってみれば市民力が大事だと言っている部分はまさにそこになりますので、その部分の熱い想いが地域全体に広がるということが最も伝播力があると思います。そういった工夫をして、まとめていただければ大変ありがたいと思います。

私も振り返りますと、南三陸町の復興計画を作る際に、地域のワークショップのコーディネーターのリーダーを務めました。その時も皆さんの言葉をそのまま残した形でとりまとめました。住民の方にとって言葉が残るということは嬉しいことでもあり、一方で責任もあることになります。そうい

う意味では、総合計画審議会の委員というものは重責ではありますが、どのような議論が行われたのかということを市民の皆さんに知ってもらって、共感いただいて仲間になってもらうという伝播力として使わせていただくということになります。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。異議が無いようであれば、ぜひそのような形でまとめていただければと思います。それを政策にどう反映させるかということは次の段階にありますけれども、まずはこの熱い議論をぜひ残していただければと思います。

それでは、大変活発な議論が形に残っていくということになりますが、皆さんも責任を持ってそれを実行していくということでお願いします。これを上手にまとめるのも大変だと思いますが、事務局にお願いしたいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

(風見会長)

それでは、議事の(3)今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料4をご覧ください。

こちらは今後のスケジュールですが、本日の第2回総合計画審議会を記載しております。先程も説明させていただきましたけれども、12月21日土曜日に第1回市民ワークショップ、令和7年の1月11日土曜日に第2回市民ワークショップ、2月9日日曜日に第3回市民ワークショップを開催する予定としております。今回の審議会でのご意見や市民ワークショップで出た意見を反映した形で基本構想案を作成させていただきまして、2月下旬から3月上旬に第3回の総合計画審議会を開催できればと思っています。ところでございます。詳細につきましては、また改めてご案内させていただきます。

(風見会長)

只今のスケジュール等についてご質問はございますか。今後、こうしたワークショップを踏まえて総合計画をまとめていくということになります。よろしいでしょうか。

それでは、最後にオブザーバーとしてお越しにいただいている中学生のお二人からお話したいと思います。緊張した面持ちだったと思いますが、こうして大人達が一生懸命富谷市の未来について議論している姿を見ていただきました。やはり富谷市の未来は皆さんにもかかっておりますので。では、お願いします。

(オブザーバー①)

本日は、このような会議に参加させていただきありがとうございました。

先程、富谷市の現状、アンケート結果を聞かせていただき、暮らしやすさや愛着が多く感じられるという意見が多かったのですが、中学生としてもその暮らしやすさという面が多く感じられます。住んでいてそう思うことが多いですし、富谷市の良い部分だと思いますので、ぜひそれは伸ばして行ってほしいと思います。

まちづくりについては、大勢の力が必要だと思います。大人だけでなく、中学校や子ども達も自分

達の未来のために力を合わせていくことで、富谷市の発展に繋がればと思いました。このような会議に参加させていただく機会は多くありませんし、大人達の意見を聞く場面も少ないので、今日は皆さんの意見や思いというものが強く胸に響きました。自分も富谷市の未来を楽しみにできるように頑張っていきたいと思いました。本当に今日はありがとうございました。

(オブザーバー②)

今日は、本当にこのような貴重な会議に参加させていただきありがとうございました。

今日こうやって初めて皆さんが真剣に富谷市の現状や将来について話し合っている姿を見て、それがまちの幸福度や住み続けたいランキング1位という結果に繋がっていたり、人口も増え続けているという数値として残っていることは素晴らしいことだと思いました。また、これからどのように富谷市が良くなっていくのかなとわくわくした気持ちになりました。

アンケートでは半数以上が住み続けたいと思っていますし、愛着を持っているということでしたが、それとは裏腹に交通の便が良くないという意見もありました。この交通の便に関しては学生の目線から見ても全く同じことだと思います。学生もバスを乗り継いだりして通学していますが、8時くらいの時間帯はみんな通勤、通学で道路が混んでいて、学生もそれでストレスを抱えていると思いますので、ぜひ変えてほしいと思っています。

それから、少しでももっとこうしてほしいなと思っている人が沢山いると思うので、少数派の意見であってもどんどん取り上げていってほしいと思います。

今回は本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(風見会長)

お二人の真剣なご意見が皆さんの胸にも響いたと思います。

大人達だけではなくて若い人と一緒に政策を作るということは、若生市長は実行させていかれると思います。お二人の意見は若生市長にも響いたと思いますけれども、若生市長からもお二人に一言お願いします。

(若生市長)

お二人から本当に素晴らしいお言葉をいただいて、ありがとうございます。

皆さんに富谷市に生まれて良かった、富谷市に住んで良かったと思ってもらえるように、そして次の時代を担ってもらえるように、今の時代をしっかりと頑張っていきたいと思います。

最後に少数派の意見にも応えてください、大事にしてくださいという言葉もすごく響きましたので、しっかりと小さい声に耳を傾けて、小さな意見をしっかりと反映できるような市政運営をこれからも頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました。

(風見会長)

お二人のお話やオブザーバー②の最後の言葉は、誰も取り残さないというSDGsの精神そのものだと思います。やはり少数意見にも耳を傾けて皆さんが満足できる市政運営をどこまでできるのかを追求すべきなので、首長である若生市長を中心に頑張っていきたいと思っていますし、期待申し上げております。

それでは、以上で議事を終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

本日、改めて感じたのは、富谷市の市民力ということです。市民力がまちづくりの根幹であり、まちづくりは全員参加でそれぞれが責任を持ってやるべきだと思います。政策にしっかりと提言をし、それぞれがその実現に責任を持つという、市民が主体性を持ったまちづくりということが「オールとみや」のまちづくりを行う上でのキーワードになるかと思います。市長を筆頭に産官学民全員が力を合わせてまずは計画を作って、その実現に向けて邁進していければと思います。

本日は活発なご議論ありがとうございました。

5 その他

※事務局より諸連絡

6 閉会